

青森県立深浦高等学校

住 所 西津軽郡深浦町大字広戸字家野上九五の一五七

生徒数 男子一二〇名 女子一二六名

部員数 男子四名 女子三名

顧問 野呂 祥雄

コーチ 加藤 清

ここ二、三年、部員数の多い学校をみると、うらやましくもあり憎らしくも感じるようになりました。個人戦のみの試合参加では、何とも気合いが乗らないものです。学校対抗(団体戦)に参加できない寂しさや辛さをしみじみとかみしめながら、深浦高校空手道部を紹介することになりました。

生徒数の減少、運動部数の過多、きつい部をさける生徒気質、少年部の子供が中学校の断絶があつてか、空手道をそのまま続けない等の現在の本校及び周辺状況があいまって、部員数確保が至難の業となってきました。さいわい、空手道は個人競技でもあるので、部の存続は細々と保っておりますが、本校にとって二十年という伝統と名譽ある部としては嘆かわしいかぎりです。

団体戦組手が始まるときの、ドキドキ、そわそわさせるあの心境、落ち着きがなく、ついタバコを口にくわえ、「ハッ」と思うあのきまわずさ。団体戦型が始まるときの、失敗しないよう神にも祈りたくなる気持ち、無事終わった直後の「ホッ」とするも束の間得点へのどうしようもない不安、そして、勝利の喜びと敗北の哀れさ。これらすべてが空手道団体戦ならではのことと感じてい

るのは、私ばかりでしょうか。時に、生きた心地がしないことも、選手のふがいなさに憤りをおぼえること、恥ずべきことですが、審判に対する不満さえも確かに感じたことがあります。振り返ると、良きにつけ悪きにつけ団体戦に出場できたことが、幸せの一言に尽きるとしみじみと思う昨今です。

思えば二十余年前、現コーチ加藤さんが深浦町に道場を開いたことにより、本校空手道部が創設されました。空手道に対する無理解、部員の暴力行為、休部や部員の退部などのことばに言い表せない苦しみはありましたが、本校空手道は輝かしい業績をたどってきたといっても過言ではないでしょう。対外試合での戦績、いろいろな場においての演武、他の部活動の模範となり得る日頃の練習、また、個々の学習や行動においても内外に誇れるものがありました。

私ごとですが、空手道が好きでもなく、できるわけでもないのに発足時とここ数年顧問の任にあたっております。私自身、野球やバレーボールを比較的得意としていたのですが、発足時は空手道を愛好会から部へ昇格させるため、生徒会顧問の立場を悪用してバレーボール部と無理に兼任しました。空手道顧問として再任したきっかけは、退部者が続出し、休部同然となっていたものを再興しようとした加藤清さんの熱意に打たれたことと、入学式直後、右も左もわからない新入生チビ子トリオ、山崎、後藤、川村が私を訪ねてきたことがきっかけとなりました。野球部顧問を捨てたことに多少後ろ髪が引かれる思いがありましたが、決して後悔するものではありません。

空手道顧問として数年、部員数の不足に加えて退部の申し出や夜間、道場での稽古終了後の部員輸送は辛さを感じたこともありますが、汗まみれになって努力する姿の美しさ、苦心の末手にした勝利の感動、幾度か全国大会や東北大会に参加できたことなどは、空手道顧問冥利に尽きる思いがいたしております。中でも、本校部員が日本武道館において試合ができたこと、しかも一回戦を勝ち抜いたことは、私にとっても生涯忘れ得ぬ思い出として特筆すべきことです。



武道館でみせた団体型「ジオン」、「五十四歩小」は、未長く脳裏

私に武道館のよき思い出を与えてくれたのは、佐藤嗣美、西崎聖子、坂本さおり、坂崎明美のチビっ子でした。同期生十数名が次々と退部していく中で、最後まで貫き通しました。卒業時、それぞれ優良賞、皆勤賞を受賞するほど、空手道以外でも不断的の努力が見受けられましたが、私の担当である体育だけは、運動能力の乏しさからか、高い得点にはなりませんでした。そのことが逆に「型」においてがんばり通せたものと思われま

に刻まれることでしょう。

このこと以外にも私個人にとっても印象深く、また、本校の名誉を高めてくれた部員は数多くおります。特に、本校ニュー空手道部を引っ張った口数の達者な山崎正人、深く考えないでメキメキ上達した後藤晴史、体力のなさを意地でカバーした川村忍、孤軍奮闘した天坂友治などが浮かんできます。

ただ、本校空手道部の場合、部員のためには努力もさることながら、深浦町空手道協会の指導・援助を抜きにしては語れません。宮本満君、岩根聡君、石沢英光君、木村明人君、藤島幹夫君、木村良幸君等、いずれも本校卒業生であり、私にとっても良き生徒ではありませんが、自分の仕事をなげうってでも本校空手道部員にかける意気込みや姿勢は、ただただ頭がさがる思いでいっぱい입니다。もっとも、創部から現在まで人一倍情熱をもって技術指導、心の指導さらに人間指導をくり返してきたコーチ、加藤清さんには、語り尽くせないものがあります。

現在、学校での活動は、他の十余の運動部と比べても活気がないことは確かです。しかし、子供たちや一般の人々を交えた道場での稽古は熱気が漂っております。いつの日か、本校空手道部員だけでもそのような道場の姿に、また往時の姿に近づき、再び皆様方他校の胸をかりることが可能となることを祈り、そして、そのための努力を惜しまないことを誓いながら深浦高校空手道の紹介を終わります。